

小中の外国語教育を円滑に接続する文字指導の工夫

外国語教育研究会議

研究員 石川 萌 (川崎市立東小田小学校) 大澤 明浩 (川崎市立古川小学校)

養口 穂高 (川崎市立子母口小学校) 原田 朋美 (川崎市立有馬中学校)

指導主事 伊藤 敏明

I 主題設定の理由

平成 25 年 12 月末に文部科学省が発表した「グローバル化に対応した英語教育改革計画」、それに基づく英語教育の在り方に関する有識者会議による「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の 5 つの提言～(報告)」により英語教育改革が進められてきた。

平成 28 年 12 月末に中央教育審議会が「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」を公表し、文部科学省は平成 28 年度中の学習指導要領改訂作業を進めているが、外国語については、平成 25 年度から始まった英語教育改革の内容が、その中に色濃く反映されている。

2020 年度から小学校で全面実施となる次期学習指導要領では、小学校 3・4 年生での外国語活動導入と小学校 5・6 年生での外国語の教科化、それに伴う中学・高等学校での言語活動の高度化が示され、2018 年度からその先行実施が可能となっている。答申には小学校外国語教育の改善・充実について次のように述べられている。

中学年から「聞くこと」及び「話すこと」を中心とした外国語活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達段階に応じて段階的に「読むこと」「書くこと」を加え、総合的・系統的に扱う学習を行うことが求められる。その際、これまでの課題に対応するため、新たに⑦アルファベットの文字や単語などの認識、⑧国語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き、⑨語順の違いなど文構造への気付きなど、言語能力向上の観点から言葉の仕組みの理解などを促す指導を教科として行うために必要な時間を確保することが必要である。

これまで、外国語活動では文字指導を積極的に進めていなかったが、次期学習指導要領では、適切な文字指導の方法を考えていく必要がある。また、必要な時間の確保については、高学年で年間 35 時間増となるが、15 分程度の短時間学習を週 3 回行うことを含め、学校の実態に合わせた弾力的な運用により行うことが示されている。1 コマ 45 分の授業と短時間学習を適切に組み合わせることによって、週に何回か継続的に英語に触れることになり、英語力の向上が期待できる。短時間学習の有効活用を含め、小学校 3 年生から中学校 1 年生までの 5 年間でどのような文字指導を進めていけばよいのか、また、外国語教育を小学校から中学校へと円滑に接続するにはどうすればよいのか研究することにした。

II 研究の内容

1 研究の方法

本研究会議の研究員が担当する小学校 3 年生と 6 年生の外国語活動、中学校 1 年生の英語の授業での文字指導の場面に焦点をあて、検証授業を計画実施、授業の中で行われた諸活動について改善点を検討し、今後の文字指導における留意点と参考事例を示すことにした。

2 文字指導を進めるための背景となる考え方

(1) 現行学習指導要領における文字指導について

文字指導については、児童への負担を論点とした否定的な意見や小中連携を念頭においた肯定的な意見が、様々な研究者から示されてきた。小学校外国語教育が拡充されようとしている現在、小中連

アルファベットなどの文字の指導については、例えば、アルファベットの活字体の大文字及び小文字に触れる段階にとどめるなど、中学校外国語科の指導とも連携させ、児童に対して過度の負担を強いることなく指導する必要がある。さらに、読むこと及び書くことについては、音声面を中心とした指導を補助する程度の扱いとするよう配慮し、聞くこと及び話すこととの関連をもたせた指導をする必要がある。

外国語を初めて学習する段階であることを踏まえると、アルファベットなどの文字指導は、外国語の音声に慣れ親しんだ段階で開始するように配慮する必要がある。さらに、発音と綴りとの関係については、中学校学習指導要領により中学校段階で扱うものとされており、小学校段階では取り扱うこととはしていない。

携を踏まえた文字指導の重要性が高まっている。現行の学習指導要領下での文字指導は、その解説に次のように示されている。

現行の学習指導要領においても文字指導は可能であるが、音声面を中心とした指導を補助する程度となっており、現在使用されている外国語活動教材「Hi, friends! 1」の Lesson 6 でアルファベットの大文字、「Hi, friends! 2」の Lesson 1 で、大文字と小文字に慣れ親しむ単元がある程度となっている。

(2) 次期学習指導要領における文字指導について

文部科学省は、文字指導を含めた新たな外国語教育の検証のために必要な補助教材として、「Hi, friends! Plus(以後、HFP とも表記)」を作成し、研究開発学校等において、平成 27 年度から平成 28 年度までの 2 年間でその効果を検証している。本市においても、各校でその教材を試すことができるよう、教室用のコンピューターに導入している。本研究会議においては、その教材を積極的に利用し、どのように授業の中に取り入れていくか検討することにした。

次期学習指導要領では、小・中・高等学校を通じた指標形式の目標が示されることになっているが、小学校段階の文字指導については次のような目標が示されている。

<聞くこと>

- ・アルファベットの発音を聞いて、どの文字であるかがわかるようにする。

<読むこと>

- ・ごく身近にあるアルファベットの文字を識別し、発音することができるようにする。
- ・音声で十分に慣れ親しんだ、ごく身近で具体的な事物を表す単語を見て、その意味を理解できるようにする。

<書くこと>

- ・目的を持ってアルファベットの大文字と小文字を活字体で書くことができるようにする。
- ・例文を参考にしながら、音声などで十分に慣れ親しんだ語句や文を書き写すことができるようにする。

(3) 段階的な文字指導と小中の外国語教育の円滑な接続について

樋口(2013)は、文字指導について、児童や指導者を対象としたアンケートなどにおいて中学年から高学年にかけて文字に対して興味・関心が高くなり、読みたい、書きたいという希望者が多くなっていくことを指摘し、発達段階に応じた文字指導の導入は重要であるとしている。樋口(2013)が示した段階的な指導を参考に、「Hi, friends! Plus」の活用場面と指導学年を考えた文字指導の段階を表 1 に整理した。また、表 2 に HFP の文字指導に関するワークシートの内容を示した。

今後の小学校外国語教育の拡充にあたり、中学校の英語科教員が、小学校外国語教育でどのような指導が行われているかを把握することがさらに重要になってきた。中学校英語の入門期に小学校で使用した教材を活用することが、小中の円滑な接続に向けた最初の手立てとなると考え、中学校において、HFPの活用を試みた。

表1 文字指導の段階

(表中のWSは「Hi, friends! Plus」のワークシートを示す)

<p>1. 読むこと (聞くことを含む) 目標: アルファベットの大文字と小文字をシンボルとして視覚的に識別し、文字と音声を結び付けて識別できるようにする。 音声で慣れ親しんだ基本的な単語や文を読むことができるようにする。</p>			
段階	○ねらい・活動	Hi, friends! Plus	対象学年
1	○アルファベットの文字を認識・理解する。 ○単語全体をまとまった形として捉え、興味をもつ。 ・アルファベット並べ ・文字当てクイズ ・文字さがし ・アルファベットジングル	・文字の書き方動画 ・懐中電灯クイズ ・文字当てクイズ	3・4・5
2	○大文字を認識する。 ○小文字を認識する。 ○大文字と小文字を認識する。 ・ビンゴゲーム ・線つなぎ ・神経衰弱 ・大文字と小文字のカード合わせ	・ジングル WS⑨	4・5・6
3	○音声で十分慣れ親しんだ単語を、ひとかたまりと認識して読む。 ・カルタ取り ・単語探し ・絵カードに書かれた単語を指導者の後について読む ・単語をアルファベット順に配列する単語カード並べ	・ジングル WS⑨ ・単語付き絵カード	5・6・中1
発展	○音声で十分慣れ親しんだ基本的な文を指導者の後について読む。 ○絵本を活用して、全体から内容を推測しながらも、曜日や数、食べ物の名前などを聞きながら文字に注目したり、指導者の後について読んだりし、文字にも関心をもつ。		6・中1
<p>2. 書くこと 目標: 大文字・小文字をなぞったり、書き写したりすることができる。 音声で慣れ親しんだ基本的な単語や表現をなぞったり、書き写したりすることができる。</p>			
段階	○ねらい	Hi, friends! Plus	対象学年
1	○アルファベットの大文字・小文字をなぞったり、書き写したりする。	大文字 WS①②③ 小文字 WS④⑤⑥	5・6・中1
2	○基本的な単語の最初の文字を書き入れる。 ○基本的な単語をなぞる。	WS⑦	5・6・中1
3	○単語を書き写す。 ○語い群から自分に合う単語を選び、書き入れる。	WS⑧⑩	6・中1
発展	○自己紹介や誕生日カードなどを作成する。 ○オリジナル絵本を作成し、低学年の児童に読み聞かせをする。		6・中1

※文字指導について、アレン玉井(2010)は、英語の音韻認識能力育成の重要性を示している。樋口(2013)の文字指導の段階や「Hi, friends! Plus」では、音韻認識能力に踏み込んだ指導が行われていないが、今後の文字指導の進め方に取り入れるべき考え方である。

表2 文部科学省作成 「Hi, friends! Plus」の文字指導に関わるワークシート内容

WS(ワークシート)	内 容
①	アルファベットの大文字の認識 Let's Write 1 大文字なぞり
② - 1, 2, 3	アルファベットの大文字の認識 Let's Write 2 一文字一文字を書く ②-3に Let's Write 3 身の回りのアルファベットの大文字で表されているもの
③	アルファベットの大文字の認識 Let's Write 4, 5 アルファベット順に大文字を書く Let's Write 6 自分の姓を大文字で書く
④	アルファベットの小文字の認識 Let's Write 1 小文字なぞり
⑤ - 1, 2, 3	アルファベットの小文字の認識 Let's Write 2 一文字一文字を書く ⑤ - 3に Let's Write 3 文字の高さごとに書く
⑥ - 1	アルファベットの大・小文字の認識 Let's Write 4 大文字とよく似た小文字を書く Let's Write 5 大文字と少し似た小文字を書く Let's Write 6 大文字とペアの小文字を書く
⑥ - 2	Let's Write 7, 8 アルファベット順に小文字を書く
⑥ - 3	Let's Write 9 アルファベット順に大文字とペアの小文字を書く Let's Write 10 大文字と小文字の組み合わせを書く
⑦ - 1~5	アルファベットの文字の認識・単語の認識 Let's Write 1 3文字かためて書く 単語の1文字をなぞる
⑧	アルファベットの文字の認識 Let's Write 1 自分の名前を大文字と小文字で書く
⑨ - 1~4	アルファベットの文字の認識・音の認識 アルファベットジングル
⑩ - 1, 2	アルファベットの文字の認識・単語の認識 Let's Write 1 小文字を聞き取って書く

(4) ローマ字指導について

現行学習指導要領において、ローマ字は小学校3年生の国語で5時間程度指導される。外国語活動の中学年導入にあたり、国語科でのローマ字指導と適切な連携を図ることにより、外国語活動での英語の文字指導が、児童にとって取り組みやすいものになると考える。今回の研究の中では取り組むことができなかったが、国語教育と外国語教育が連携して、指導内容を検討していく必要がある。

3 研究の実際

(1) 検証授業1 A小学校3年 検証する主な文字指導(ABC song・カルタ取りゲーム)

単元「食べ物で遊ぼう」全2時間中の1時間目の中で実施した。なお、ABC songについてはウォームアップとして行った。

本時の目標：アルファベットの音と文字に興味を持つとともに、様々な食べ物のいい方を知る。

活動内容	○成果と●課題
<p>1 ABC song</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌う前にアルファベット表を黒板に掲示する。 歌に合わせて1文字ずつ指し示しながら曲を聞いたり歌ったりする。 <p>2 食べ物の単語でカルタ取りゲーム</p> <ul style="list-style-type: none"> 絵カード(文字付き)で導入した食べ物の単語を使ってグループでカルタ(絵と単語付き)取りを行う。 	<p>○音声教材として中学校で活用しているABC songを活用した。ABC songもいくつかのバリエーションがあるが、この歌は韻を踏むものであるため、英語の音の響きを感じることができた。</p> <p>○ローマ字を学習した後のため、アルファベット表を示しても児童は抵抗がなさそうだった。</p> <p>●歌う前にアルファベット表を掲示してしまったが、英語の音をしっかりと聞かせることに集中させたい。</p> <p>●Let's listen! という指示があったが、1回目から一部の児童が歌い出し、英語を聞く活動とならなかった。</p> <p>●音楽なしで、フレーズごとに練習すると良かった。</p> <p>○ABC songでアルファベットを扱い、そのつながりとして文字を意識させた活動を組んだ。</p> <p>●ABC songでは大文字のみ扱っていたが、絵カードでは小文字となっていて、児童が小文字を確認する場面がなかった。</p> <p>●適切な時間が設定されていない場合、中学年では、文字に注目させる指導より、音に注目した方がよい。</p>

A小学校では、中学年での外国語活動の計画にアルファベットを扱う単元が設定されていないため、その時間の導入部分の限られた時間で、文字指導の一つとしてABC songを扱った。ローマ字学習を終えた後であったため、歌を活用することによって文字への興味を高めようとした。しかし、ウォー

ムアップの活動として行ったため、十分な時間が確保できず、適切な指導ができなかったため、より丁寧な指導が必要であると考えられた。

(2) 検証授業2 B小学校6年 検証する主な文字指導(語いの練習・ゲーム・国名書き)

Hi, friends! 2 Lesson 5 Let's go to Italy. 3/4時間目

本時の目標: 行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

活動内容	○成果と●課題
<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にアルファベットジングルを流す。 1 あいさつ <ul style="list-style-type: none"> ・曜日や日付を尋ねる。 2 国名確認 <ul style="list-style-type: none"> ・文字が大きく表示された絵カードを使い、最初の文字を付箋で隠して提示し、国名の単語の初頭音を推測させる。 3 カルタゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・国旗カードを含む絵カードを使って、I want to go to / see / eat ~. を言いながら、該当するカードをとる。 4 ビンゴゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・国旗と国名が記されたビンゴシートを使って、行きたい国を尋ねたり答えたりしながらビンゴゲームを行う。 5 自分が発表する国名を書く練習 <ul style="list-style-type: none"> ・第4時の発表に向け、ワークシートを使い、空書き、なぞり書き、書き写しの順で国名を書く。 ・書いたものをペアで確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業前の時間にチャンツやジングルなどを流しておくことで外国語の授業の雰囲気作りのためによりよい。また、児童も復習の機会となる。 ●曜日や日付を尋ねることが習慣化しているようであれば、曜日や月名の単語カードを提示するとよい。 ○単元の最初では、文字なしの絵カードを用い、この時間から絵を小さくした絵カードを利用した。音声中心の指導から段階的に文字指導に進んでいた。 ○付箋で最初の文字を隠すだけであるが、児童の注意が文字と音の両方に向き、英語の音と文字について考える良い機会となった。 ●国名確認で、文字に注目させていたが、ここで使われたカードには単語が示されておらず、活動につながりがなかった。 ○国旗と英語での国名が記されていたため、国名確認で行った活動とつながり、児童は国名とその発音、ひとままとまりとして単語を見る機会となった。 ○ただ書き写すのではなく、自分が発表する国について書くことが目的となっていた。 ○空書きに始まり、段階を追っていいいな文字練習の機会となっていた。また、児童同士で確認し合うなど協働的な学びの場面もあり良かった。 ○担任から、「何階建ての文字か」「きゅっとまとまっているか」「丸をしっかりと作っているか」などの声かけがあり、児童がそれらに注意して書くことにつながった。 ●ワークシートは他の児童の国もすべて含んだもので、児童への見せ方としては、文字の多い資料となっていた。

B小学校では、45分の授業とは別枠で、主に朝の15分を活用した短時間学習を継続的にを行い、その中で、文字指導を実施した。「Hi, friends! Plus」のワークシートを活用するとともに、各単元で学習したチャンツやゲームも取り入れ、単に文字を練習するための時間とならないよう単元と関連させて短時間学習を進めた。週1回の外国語活動の授業の中のみでの文字指導では、時間も不十分となり、今回のような取組は難しく、児童の負担になってしまうことが予想される。

(3) 検証授業3 C小学校6年 検証する主な文字指導(語いの練習・チャンツ・職業名書き)

Hi, friends! 2 Lesson 8 What do you want to be? 3/4時間目

本時の目標: 様々な職業の言い方や就きたい職業について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

活動内容	○成果と●課題
<ul style="list-style-type: none"> ・授業前にアルファベットジングルを流す。 1 職業の単語確認 <ul style="list-style-type: none"> ・モニターに絵と単語を示し、練習する。 2 チャンツ <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード(文字付き)を示しながら行う。 3 なりきりインタビュー <ul style="list-style-type: none"> ・インタビューカードと職業カードを使ってインタビューをする。 4 インタビューで探した職業を書く練習 <ul style="list-style-type: none"> ・職業の絵と単語が記載されたワークシートで、初頭文字の書き入れ、単語のなぞり書き、書き写しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業前の時間にチャンツやジングルなどを流しておくことで外国語の授業の雰囲気作りのためによりよい。また、児童も復習の機会となる。 ○ICTを活用して児童の関心を高めていた。 ●絵に比べて文字が小さく、教室後方の児童からは見にくかった。第3時で音に慣れてきているため、文字も意識した示し方が良い。 ●絵カードの文字が小さく、見にくかった。 ●職業の単語を示したので、職業カードには英単語を示しておくことで良かった。 ○7分間ワークシートに取り組んだが、自分が探した職業の単語を書くという目的があったため、すべての児童が黙って文字を書くことに集中していた。

<p>5 夢カード作り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成途中の夢カードに自分の就きたい職業の単語を記入させる。 ・4線を拡大した模造紙を使い、担任が実際に書いて見本を示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担任から、「何階建ての文字か意識して書いて」との指示があり、児童が文字の高さに注意して書くことにつながった。 ●書く速さに個人差があり、書く量に差が見られた。 ●単語を発音してから書く、文字を読み上げながら書く、など音も意識させると良かった。 ○なぞり書き等で練習した後、自分の選んだ職業を書くという目的のある活動となった。 ○担任が実際に書いて示すことで文字と文字の間隔にどう気をつければよいのか示すことができた。 ○ペアで交換して、文字が正しく書けているか確認する時間があり、協働的な学びの場面があった。
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

C小学校においても、B小学校と同様に文字指導を行うに当たり、45分の授業とは別に、主に朝の15分を活用した短時間学習を継続的に実施した。B校同様、文字指導のみに15分を使うのではなく、単元に関連した活動を織り交ぜながら学習を進めた。「Hi, friends! Plus」のワークシートには、職業に関する単語を扱っているものを含め、扱う題材によってはワークシート作成に時間がかかる。

なお、B・C校でのワークシート作成に際し、使用する文字のフォントをHFPで使用しているものに近いものとし、フォントの違いによる児童の混乱を避けるようにした。また、文字を書かせる場合は4線を使うようにした。これらの手立てにより、児童はより丁寧に文字を書こうとしていた。

(4) 中学校での取組 D中学校1年

中学校においては、英語入門期に小学校で活用した教材を活用することで、小学校と中学校を円滑につなぐ手立てとなると考えた。研究の開始が5月過ぎであったため、検証は9月に行い、アルファベット学習の復習という形で、HFPのデジタル教材やワークシートを活用し、生徒の反応や取組状況を検証した。

本時の目標：アルファベットの復習として、正確に丁寧にアルファベットを書く。

活動内容	○成果と●課題
<p>1 HFPのワークシート活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに取り組む。 ・書いたものをペアで確認する。 <p>2 アルファベット文字当て懐中電灯</p> <ul style="list-style-type: none"> ・What's this?の導入として、文字当てクイズを行う。 <p>3 HFPのデジタル絵カードの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校教科書にある身の回りの単語を絵カードにし、モニターに表示して練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○すべてのアルファベットにその文字から始まる絵があるため生徒は、意味ある単語の一部としての文字を練習しているようになっている。 ○生徒同士で確認する時間をとることにより、ていねいに注意して書こうとする様子が見られた。 ○アルファベットの認識はできるようになっているため、文字の特徴をよく考えて答えようとしていた。 <ul style="list-style-type: none"> ○HFPのデジタル教材の辞書編集ソフトを活用して、基本的な単語の練習を行うことができる。 ○音声、文字、絵の有無を設定でき、段階に応じた練習を行うことができる。

英語学習の初期にHFPのデジタル教材やワークシートを活用することは小学校での文字学習を復習するために有効である。小学校で活用した教材を用いることで、生徒も抵抗なく活動に取り組めるだろう。また、中学校教員が小学校で活用している教材を使うことも小学校での学習事項を確認することになり、小中の学習を円滑に接続することにつながると考えられる。本研究での検証は9月に行われたが、4月から活用することで、より効果が得られるものと思われる。



図1 Hi, friends! Plus の教材例

4 単元計画の中で、文字指導を取り入れた事例の指導計画

本研究会議では、これまでの指導に加えて、文字指導を取り入れるため、単元と関連付けた1回15分の短時間学習を設定し、その指導計画を作成した。以下はその一例である。

第6学年 What do you want to be? Hi, friends! 2 Lesson 8 関連

1. 文字指導の段階

書くこと **段階1** アルファベットの大文字・小文字をなぞったり、書き写したりする。
段階2 基本的な単語の最初の文字を書き入れる。基本的な単語をなぞる。
段階3 語い群から自分に合う単語を選び、書き入れる。

2. 単元の目標

- 積極的に自分の将来の夢について交流しようとする。
- どのような職業に就きたいか尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 世界にはさまざまな夢をもった同年代の子どもがいることを知り、英語と日本語の成り立ちを通して、言語の面白さに気付く。
- さまざまな職業を書き、文字に親しむ。

3. 指導と評価の計画 (時間配分4時間)		文字指導に関すること		4. 短時間学習 (1回15分)	
時	目標・活動	コ	價	評価規準	評価方法
1	様々な職業の英語での言い方を知り、職業を表す語について英語と日本語の共通点に気付く。 ・ジェスチャークイズ ・キーワードゲーム ・ミッシングゲーム			○ 職業を表す語について、英語と日本語の共通点に気付いている。	行動観察 振り返りカード 点検
①	チャンツ ビンゴゲーム				
②	チャンツ カード取りゲーム				
2	様々な職業の言い方や就きたい職業について尋ねたり、答えたりする表現を知り、慣れ親しむ。 ・ステレオゲーム ・誰の夢かを考えよう ・[C] "What do you want to be?" ・カード取りゲーム			○ 職業を表す語を聞いたり、言ったりしている。	行動観察 振り返りカード 点検
③	文字なぞり (職業)				
④	文字なぞり (職業) 夢カード作り				
3	様々な職業の言い方や就きたい職業について尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 ・[C] "What do you want to be?" ・なりきりインタビューゲーム ・夢カード作り (文字)			○ 就きたい職業について尋ねたり、答えたりしている。 ・アルファベットの文字の形や高さに注意して書いている。	行動観察 振り返りカード 点検
⑤	チャンツ 夢宣言練習				
⑥	チャンツ 夢宣言練習				
4	世界には様々な夢をもつ同年代の子どもたちがいることに気付く、相手意識をもって自分の夢を紹介しようとする。 ・[C] "What do you want to be?" ・世界の子どもの将来の夢クイズ ・わたしの「夢宣言」			○ 世界には様々な夢をもつ同年代の子どもたちがいることに気付いている。 ・相手意識をもって自分の夢を紹介している。	発表観察 振り返りカード 点検

回	児童の活動	担任の指導
①・②	様々な職業の言い方や、就きたい職業について尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ ○What do you want to be?チャンツを言う。 ○職業ビンゴゲームをする。 ○カード取りゲームをする。	・慣れてきたら、職業をかえるようにする。
③・④	ゲームについて グループになり、指導者が発音した職業のカードを取る。慣れてきたら、チャンツのリズムに合わせて出題をする。最後にフラッシュカードを発表し、最後まで楽しめるように工夫する。 様々な職業の文字をなぞり、夢カードを作る ○What do you want to be?チャンツを言う。 ○自分や友だちの就きたい職業の文字を書く。 ・「1階建て」「2階建て」「地下1階建て」など文字の形の特徴に注意しながら職業を書く。 ○夢カードを作る。(絵のみ)	・職業をかえたり、役を分けたりする。 ・新しく知る職業の発音を確認する。 ・4線を意識して書けるように声をかける。
⑤・⑥	相手意識をもち、夢宣言の練習をする ○What do you want to be?チャンツを言う。 ○夢宣言の練習をする。	・職業をかえたり、役を分けたりする。 ・となりの友だちと聞き合い、リハーサルをするよう声をかける。

Ⅲ 研究のまとめ

本研究では、今後の小学校外国語教育において、適切な指導が必要となる文字指導について、その指導の段階を整理し、中学年から高学年、さらには中学校1年生へと円滑に指導をつなげる手立てについて授業実践を通して探った。

文字指導の中心となる教材として、文部科学省が作成した「Hi, friends! Plus」を活用した。本研究会議で整理した文字指導の段階と HFP のワークシートの配列順がほぼ一致するため、指導の段階に合わせて活用していくことができる。今回の研究では6年生を中心に短時間学習の中で活用した。ワークシートは練習内容がA 4片面1ページで構成されていて、取り組みやすく、初期の文字指導に有効な教材となっている。

短時間学習で、文字指導を行う場合、文字指導のみにその時間を費やすのは不適切である。単元目標達成に向け、チャンツ練習などで学習してきたことを繰り返し復習する時間も確保したい。単元計画の中に短時間学習の内容を位置づけた上で、その一部を計画的に文字指導に利用していくことが適

切だと考える。また、文字指導の段階を踏まえ、児童に過度の負担がかからないように留意することが必要である。「Hi, friends! Plus」のデジタル教材にあるアルファベットの文字の認識のための「文字当て パズル」や「文字当て 懐中電灯」なども活用しながら楽しく文字学習を進めたい。これらの教材は、小学校中学年から中学1年生まで幅広く、楽しみながら文字認識を高められる教材であることがわかった。

中学校においては、英語学習の初期に小学校で活用した教材を利用することは、子どもたちにとっては英語学習のハードルを下げることにつながり、小学校での学習を復習する機会となる。また、中学校教員にとっても小学校外国語教育で何が行われてきているのかを確認することになり、小中の学びを接続しやすくなると考えられる。

今回の研究では、小学校3・6・中学校1年生での取組に限られているため、小3～中1までの系統的な文字指導を考えるまでには至らず、さらに教材等の検証が必要である。

IV 今後の課題

文字指導については、これまで中学校で指導する内容であったが、次期学習指導要領では小学校がその役割を担う。中学校での文字指導もこれまで適切に行われてきたとは言いがたく、英語が苦手な生徒を生み出してきたかもしれない。小学校4年間で、丁寧で、適切な文字指導を行うことが、児童の外国語学習への興味・関心を高め、中学校での外国語学習へとつながると考えられる。

今回、研究に取り入れられなかった音韻認識能力の育成は、文字指導のあり方に重要な役割を果たすと考えられる。文字指導というとフォニックス指導がすぐに引き合いに出されるが、アレン玉井(2010)は、フォニックスは十分なアルファベットの知識と音韻(素)認識能力を持った学習者にのみ効果的であると述べている。今回の研究で取り組んだ文字指導は、アルファベットの大文字・小文字の認識の段階であり、次の段階として音韻認識能力を育成し、さらに音と綴りの関係の学習へとつなげていく必要がある。小3～中1まで系統的で、効果的な文字指導について、さらに研究を深め、小中学校両方で共有していきたい。

最後に、本研究を進めるにあたり、適切なお助言をいただいた先生方、研究をご支援いただいた研究員所属校の校長先生をはじめ、教職員の皆様に心から感謝を申し上げます。

【参考文献】

樋口忠彦・ほか『小学校英語教育法入門』 研究社 2013

伊東治己『外国語活動における文字の扱い再考 ―文字を使つての指導と文字指導を区別しよう―』
鳴門教育大学小学校英語教育センター紀要 第4号, 27-38, 2013

アレン玉井光江『小学校英語の教育法 理論と実践』 大修館書店 2010